

情報連絡員総括表（2022年2月）

－ 静岡県中小企業団体中央会 －

本書は、静岡県中小企業団体中央会が委嘱した情報連絡員〔協同組合等の役職員 60 名〕による毎月の景況調査の集計結果です。

1. 概況報告
2. 項目別の前月・今月の DI 値の比較
3. 情報連絡員からの報告
4. 中央会・行政への要望
5. 主要三指標における DI 値の推移（グラフ）

・本調査の見方・

◎売上高等の 9 項目につき 前年同月と比較し、好転・不変・悪化 のいずれかを回答

DI 値＝〔(好転組合数－悪化組合数)／調査対象組合数〕×100

※全項目が前年同月比「不変」となった場合は、DI 値は基準値 ±0.0(＝横ばい)で推移

※「在庫数量」のみ、プラス値が高いほどマイナス要因と定義

1. 概況報告（回答者数 60 名：回収率 100.0%）

○2022 年 2 月の DI 値は、前月との比較において「販売価格」「収益業況」「資金繰り」「設備操業度」「雇用人員」の 5 指標が増加する結果となった。

1 月期からの感染拡大に加え、燃料価格高騰も各種業界に大きく影響を与えている。各業界からは長引くコロナ禍に疲弊を見せる声や不安定になりつつある経済状況を不安視する声が多く寄せられた。

○「製造業」では、前月との比較において、「売上高」「在庫数量」「取引条件」「業界の景況」の 4 指標が悪化する結果となった。

輸送用機械器具からは、「新型コロナウイルスの影響のほかに現状ロシアのウクライナ侵攻により世界情勢が不安定となり原油価格などのエネルギー資源が上昇に転じている」とのコメントが寄せられた。

○「非製造業」では、前月との比較において、「売上高」「取引条件」「資金繰り」「雇用人員」の 4 指標が悪化する結果となった。不動産取引業からは、「コロナ禍、ウッドショック、ガソリン価格高騰により、建築費、建物解体費、土木工事費等全てが上昇。残土の処分について厳格化され、費用が従来より 3 倍程度に増加している」との声が寄せられた。

(DI 値)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
2022年2月	-18.7	-9.3	11.8	-16.9	-37.2	-25.4	-13.3	-15.2	-44.0
2021年1月	-18.3	-11.4	11.6	-15.0	-41.7	-28.3	-16.6	-16.7	-40.0
増減	-0.4 ↓	2.1 ↓	0.2 ↑	-1.9 ↓	4.5 ↑	2.9 ↑	3.3 ↑	1.5 ↑	-4.0 ↓

2. 項目別の前月・今月のDI値の比較

		製造業				非製造業				全体			
		DI値	増減			DI値	増減			DI値	増減		
売上高	2022年2月	-23.4	-0.1 ポイント	↘		-13.8	-0.5 ポイント	↘		-18.7	-0.4 ポイント	↘	
	2021年1月	-23.3				-13.3				-18.3			
在庫数量	2022年2月	-3.4	3.2 ポイント	↘		-23.1	-1.6 ポイント	↗		-9.3	2.1 ポイント	↘	
	2021年1月	-6.6				-21.5				-11.4			
販売価格	2022年2月	10.0	0.0 ポイント	—		13.8	0.5 ポイント	↗		11.8	0.2 ポイント	↗	
	2021年1月	10.0				13.3				11.6			
取引条件	2022年2月	-13.3	-3.3 ポイント	↘		-20.7	-0.7 ポイント	↘		-16.9	-1.9 ポイント	↘	
	2021年1月	-10.0				-20.0				-15.0			
収益状況	2022年2月	-36.6	6.7 ポイント	↗		-38.0	2.0 ポイント	↗		-37.2	4.5 ポイント	↗	
	2021年1月	-43.3				-40.0				-41.7			
資金繰り	2022年2月	-16.6	6.7 ポイント	↗		-34.5	-1.1 ポイント	↘		-25.4	2.9 ポイント	↗	
	2021年1月	-23.3				-33.4				-28.3			
設備操業度	2022年2月	-13.3	3.3 ポイント	↗						-13.3	3.3 ポイント	↗	
	2021年1月	-16.6								-16.6			
雇用人員	2022年2月	-23.4	3.3 ポイント	↗		-6.9	-0.3 ポイント	↘		-15.2	1.5 ポイント	↗	
	2021年1月	-26.7				-6.6				-16.7			
業界の景況	2022年2月	-43.3	-9.9 ポイント	↘		-44.8	1.8 ポイント	↗		-44.0	-4.0 ポイント	↘	
	2021年1月	-33.4				-46.6				-40.0			

今月の業種別回答件数

1) 業界の経営動向

静岡県中小企業団体中央会

		売上高		在庫数量		販売価格		取引条件		収益状況		資金繰り		設備操業度		雇用人員		業界の景況	
		増加	減少	増加	減少	上昇	悪化	好転	悪化	好転	悪化	好転	悪化	上昇	悪化	増加	減少	好転	悪化
製造業	食料品	0	1	0	2	1	0	0	1	0	3	0	1	0	1	0	1	0	3
	繊維工業	0	2	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	1	0	2
	木材・木製品	1	2	0	2	3	0	1	1	1	2	0	0	1	1	0	0	1	1
	紙・紙加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	印刷	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	窯業・土石製品	1	2	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	2	0	2
	鉄鋼・金属工業	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	1	2	1	0	1	1	2
	一般機器	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	電気機器	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
	輸送用機器	2	3	3	1	0	1	0	1	2	3	0	1	2	2	0	2	2	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非製造業	卸売業	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0			0	0	0	2
	小売業	0	4	0	2	3	1	0	3	0	5	0	4			0	1	0	5
	商店街	1	1	0	2	1	1	0	1	0	1	0	1			0	1	0	2
	サービス業	2	1			0	1	0	0	2	1	0	1			1	0	1	2
	建設業	1	1			2	0	1	2	1	3	1	2			1	1	1	2
	運輸業	1	2			1	0	0	1	0	3	0	3			0	1	0	3

3.情報連絡員からの報告

製造業

水産食料品	・まん延防止等重点措置下で商品流通量も減る中、資材・副資材、ガソリン代等の値上り、特にコールドチェーンで大量に使用される電気料金の高騰が大きく収益性を阻害している。今後も価格高騰は続く様相なので、業界としては非常に厳しい。
	・静岡県でも再び「まん防」適用による飲食店の時短営業・休業に入り業務用調味料などの販売・生産量が下がっている。一日でも早く飲食店が通常営業になり物の動きが今よりも活発になって欲しいと切に願います。
織物業	・新型コロナウイルスの影響が長引き、需要は依然として厳しい状況が続いていることに加え、綿糸等の原材料価格の高騰、高止まりしている状況で、更に染色加工などの生産コストが上昇し、価格転嫁が必要な状況にある。この先の社会情勢によっては、一層厳しい状況が予想される。
	・コロナ蔓延から2年以上になるが好転の兆しは全く見えない。中央問屋、地方問屋を含め綿浴衣製品、仕掛品が相当数ありこの在庫が後1年以上かかる。稼働率は綿織物50%、絹織物60%位で推移。
宗教用具	・まん延防止等重点措置の実施に伴う影響で販売店の顧客の減少が続き、取扱商品の減少もあり売上は対前年比△15%減と厳しさは続いている。
製材業、木製品	・アメリカ発のいわゆるウッドショックにより国産材需給がひっ迫したが、ウクライナ紛争からの対ロシア経済制裁の影響がどの程度なのか懸念される。ロシア産木材の取引に制限が加わると、欧州への影響も含め、直接間接的に動向が変わると予想される。
骨材・石工品等	・先月と状況は同じ。在庫は減少。
金属製品	・総じて業界の景気状況は悪化。
	・コロナの影響がある。まだ自動車メーカーの操業低下の影響がある。
生産用機械器具	・親会社の受注環境は堅調に推移し、前年同期比では日本・米国・中国を中心に大幅に増加しているが、部材調達難、原材料価格高騰、コンテナ不足、物流費高騰、新型コロナウイルス感染症の再拡大などのリスク要因があり、我々組合員への生産能力100%までは、まだまだである。
	・半導体不足に伴う部品調達遅延により、週1日休業に迫られる組合員が出ている。
電気機械器具	・部品調達問題は改善傾向にあるものの特定部品がネックとなって生産計画に影響が出ている。 ・大型冷蔵庫は生産販売共に好調に推移している。 ・家庭用と業務用のエアコンは部品の調達問題による生産計画変更が発生している。
輸送用機械器具	・新型コロナウイルスの影響のほかに現状ロシアのウクライナ侵攻により世界情勢が不安定となり原油価格などのエネルギー資源が上昇に転じている
輸送用機械器具	・半導体不足による部品調達の問題は改善時期の見通しがつかず、生産計画の変更が継続されている。また、オミクロン株の感染は企業内にも拡がっており、人手の確保にも苦労している。
	・コロナオミクロンの感染蔓延により、移動自粛などの影響はあるものの、自動車などの部品製造業の操業度は高くなっている。半導体不足、ウクライナ情勢など外的環境の変化により今後の推移には注視していて予断を許さない状況である。
	・受注量少なく厳しい状況が続いている。
	・カーメーカ稼働停止に伴い生産調整の実施がされ1/25～2/7日の期間生産調整が実施された。大幅な生産減少が発生。

非製造業

セメント卸売業	・依然として需要は低迷しており2ヶ月連続前年割れとなった。
鮮魚小売業	・魚価が高値安定で推移している中、ウクライナ情勢によるロシアへの経済制裁の発動による深刻な影響を案じる声が多い。とりわけ水産物においてロシアは有力な貿易相手国であるため、この先どのような事態が想定されるのか注視しているところである。相応の影響が出ることが予想される。
各種商品小売業	・商店街は、この2年間でほぼ機能しなくなりました。特にテナントが多い商店街は致命的である。元々、コロナ前より高齢化や事業継承、ユーザーの大型郊外型店舗等へ流れなどの問題を抱え、追い打ちをかけるように長期間の過剰な感染症対策で体力は限界にある。商店街組合としてもあと数年で発展的解消を検討しており、来年度より、事務局を廃止し、経費を極力抑えた運営を決断した。ほとんどの事業もやめる予定である。
各種商品小売業	・買い回り品の消費がまだまだ上がってこないのが現状である。
不動産取引業	・コロナ禍、ウッドショック、ガソリン価格高騰により、建築費、建物解体費、土木工事費等全てが上昇。残土の処分について厳格化され、費用が従来より3倍程度に増加している。
宿泊業	・伊豆地区の観光マーケットの7割以上を占める東京・神奈川・千葉・埼玉を中心とした首都圏が本年2月にもまん延防止等重点措置の適用となり、伊豆地区の観光に大きな影響を及ぼす結果となった。コロナ対策のための制度融資により一時的に資金調達できたものの、予想以上にコロナの影響が長引き宿泊客の入込回復が見えないことから、これから始まる借入金の返済が不安視される。
総合工事業	・市町村のコロナ対策費の増加により例年の年度末は3月中ごろまでは忙しいのですが、2月中頃に仕事が終了した業者もいます。
	・販売価格が上昇しているのは材料高騰のためだがそれでも材料上昇分を価格に転嫁できていないため収益は一層悪くなっている。
職別工事業	・昨年同時期のコロナ禍の状況に比べ、発注、着工は徐々に増えているが、工事の大型化に伴い、繁閑の差も出てきている模様。資材の高騰が続き、工事費の上昇がなかなか見込めない中、新規案件契約時には苦戦している。
道路貨物運送業	・昨年からの原油高騰に伴い、燃料価格値上がり状態が継続しているうえに、ロシアのウクライナ侵攻により一層の価格高騰で収益が圧迫している。また、運送業界の2024年問題も間近に控えており、運転手不足も懸念される。政府による石油元売会社への補助金交付が行われているが、燃料の価格上昇を抑える状況ではない。トリガー条項の凍結解除を早期に実施してほしい。
	・ガソリン・軽油の値段上昇が止まらない。
	・政府のコロナ対策本部の要請により引き続き運行を継続しているが、まん延防止重点措置の延長により旅客需要が半分以下に落ち込む状況が続いており、高騰が続く燃料価格に関しては、ロシア侵攻によりさらなる拍車がかかることが大きな懸念となり、大きく膨らんだ融資の返済期限が迫り、追加融資も限界に来ている中、対応する手立てが見つからない。
	・再びまん延防止重点措置が発令され、戻り始めた人の動きが止まってしまう、無事に新年度を迎えられるかを心配する声も聞かれる状況に陥っている。

4. 中央会・行政への要望

道路旅客運送業

・旅客需要の低迷、燃料価格の高騰など、民間企業として手の施しようがない状況が続いているため、金融支援策や燃料高騰に対する支援策など、今の状況が落ち着いてくるまで強力な公的支援をお願いしたい。

5. 主要三指標における DI 値の推移

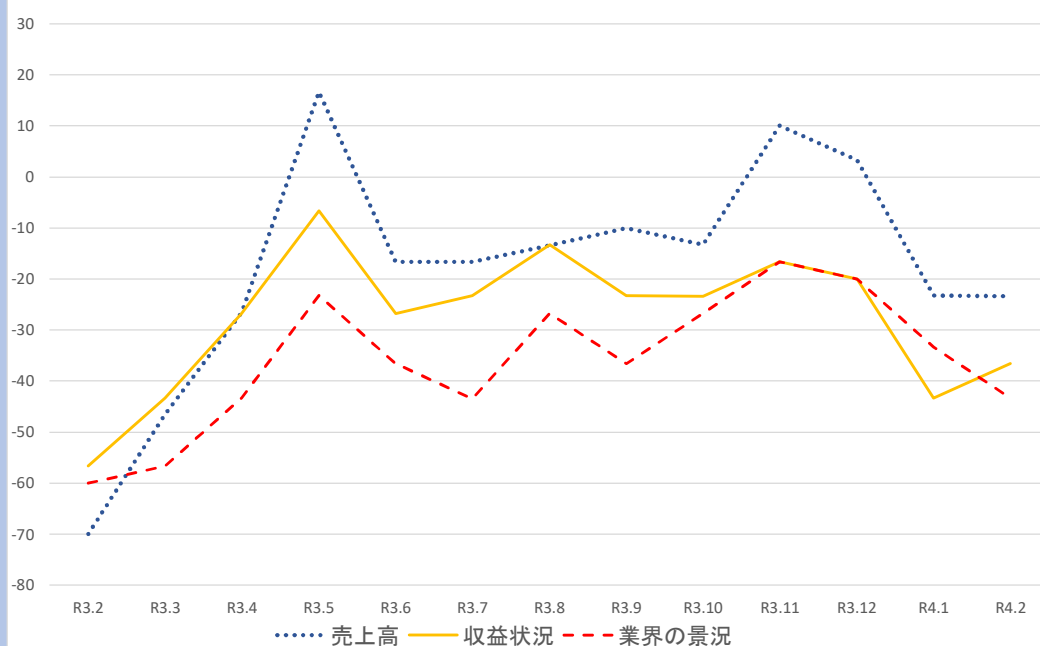
■ 2021年2月期～2022年2月期までの推移

全体	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2
売上高	-51.6	-33.3	-5.00	-13.3	-8.4	-10	-18.4	-20	-8.6	5.0	11.7	-18.3	-18.7
収益状況	-51.6	-33.3	-18.3	-20.0	-26.6	-23.4	-28.3	-36.7	-29.4	-31.7	-10.0	-41.7	-37.2
業界の景況	-61.6	-46.7	-36.6	-35.0	-38.3	-33.3	-38.3	-36.6	-34.5	-23.4	-18.4	-40.0	-44.0

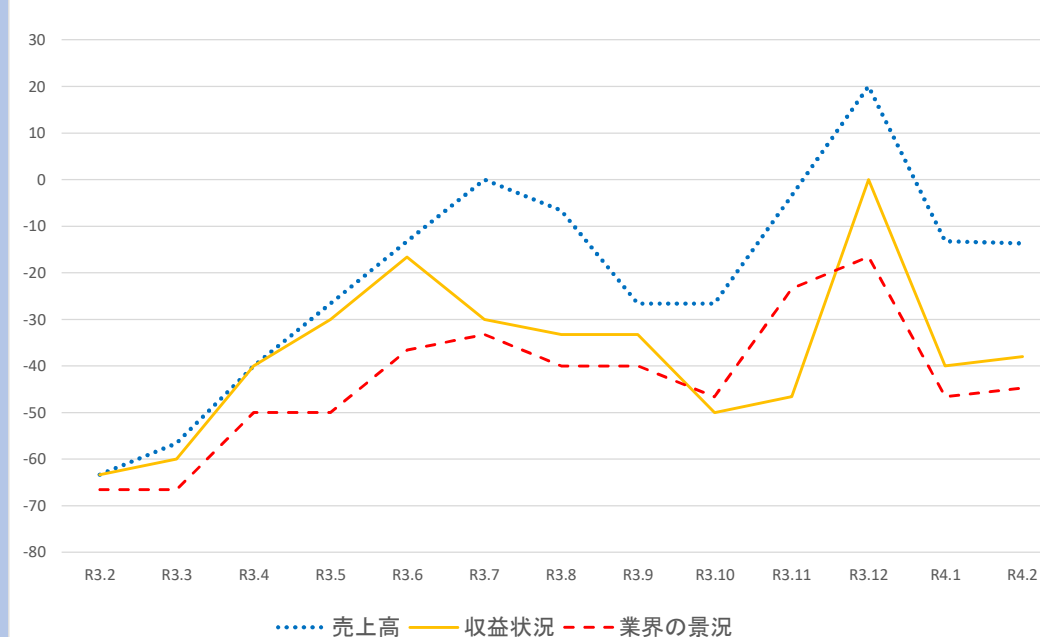
製造業	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2
売上高	-70	-46.6	-26.6	16.7	-16.6	-16.7	-13.4	-10	-13.3	10.0	3.3	-23.3	-23.4
収益状況	-56.6	-43.3	-26.7	-6.7	-26.7	-23.3	-13.3	-23.3	-23.4	-16.6	-20.0	-43.3	-36.6
業界の景況	-60	-56.7	-43.3	-23.3	-36.6	-43.4	-26.7	-36.6	-26.7	-16.6	-20.0	-33.4	-43.3

非製造業	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2
売上高	-63.4	-56.6	-40	-26.7	-13.3	0	-6.7	-26.7	-26.7	-3.4	20.0	-13.3	-13.8
収益状況	-63.4	-60	-40	-30	-16.7	-30	-33.3	-33.3	-50	-46.7	0.0	-40.0	-38.0
業界の景況	-66.7	-66.7	-50	-50	-36.6	-33.3	-40	-40	-46.7	-23.4	-16.6	-46.6	-44.8

【製造業 DI 値（前月比）】



【非製造業 DI 値（前月比）】



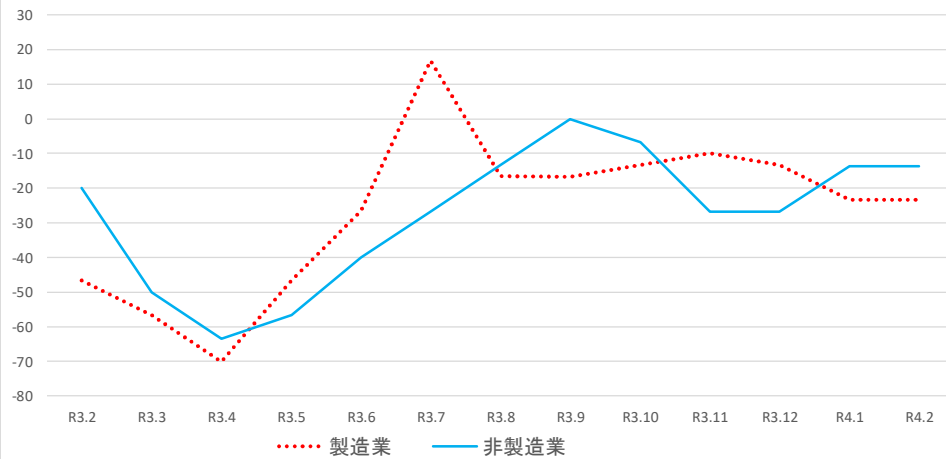
■2021年2月期～2022年2月期までの推移

売上高	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2
製造業	-46.7	-56.7	-70	-46.6	-26.6	16.7	-16.6	-16.7	-13.4	-10	-13.3	-23.3	-23.4
非製造業	-20	-50	-63.4	-56.6	-40	-26.7	-13.3	0	-6.7	-26.7	-26.7	-13.8	-13.8

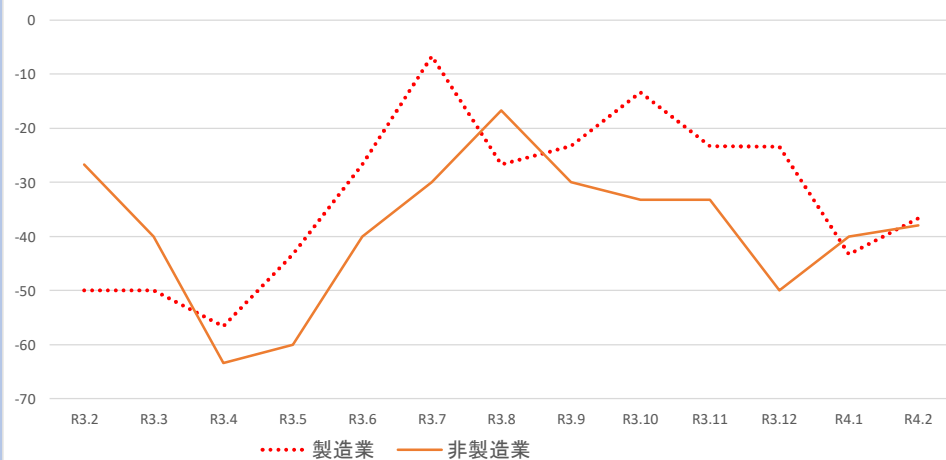
収益状況	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2
製造業	-50	-50	-56.6	-43.3	-26.7	-6.7	-26.7	-23.3	-13.3	-23.3	-23.4	-43.3	-36.6
非製造業	-26.7	-40	-63.4	-60	-40	-30	-16.7	-30	-33.3	-33.3	-50	-40.0	-38.0

業界の景況	R3.2	R3.3	R3.4	R3.5	R3.6	R3.7	R3.8	R3.9	R3.10	R3.11	R3.12	R4.1	R4.2
製造業	-63.3	-66.6	-60	-56.7	-43.3	-23.3	-36.6	-43.4	-26.7	-36.6	-26.7	-33.4	-43.3
非製造業	-36.6	-50	-66.7	-66.7	-50	-50	-36.6	-33.3	-40	-40	-46.7	-44.8	-44.8

【売上高／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】



【収益状況／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】



【業界の景況／製造業と非製造業の比較 D I 値（前月比）】

